

15. 「マスカット」の果粒果頂部を加害するネギアザミウマの防除適期

[要約]

ネギアザミウマによる「マスカット」果粒果頂部の被害は、加害時期である硬核期に薬剤防除すると抑制され、おおむね3月加温作型では6月上旬、無加温作型では7月上旬が防除適期である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

施設ブドウ「マスカット オブ アレキサンドリア」(以下「マスカット」)では、ネギアザミウマによる加害によって果粒果頂部に白斑症状が生じ、褐点病を助長する(図2)。この症状は、現地では「へそ黒」と呼ばれ、主に加害するのは硬核期以降の果粒で作型毎に加害時期が異なることが明らかになっている。そこで、ネギアザミウマに対する防除適期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 硬核期以降で、ネギアザミウマの加害初期に薬剤防除すると果頂部被害は殆ど認められないが、ネギアザミウマ発生10日後の防除では、果頂部被害の抑制効果が低下する(図1)。
2. ネギアザミウマは、いずれの作型でも5月上旬頃から発生し、5月下旬から6月下旬が発生ピークとなる(データ省略)。硬核期の開始は、3月加温作型ではおおむね6月上旬、無加温作型では概ね7月上旬で、この時期が防除適期である。

[成果の活用面・留意点]

1. 本調査は、雨除けハウスの「マスカット」で実施した結果である。雨除けハウスで硬核期以降となる7月下旬から3～5日間隔で2週間、5回放虫を行い、最初の放虫日をネギアザミウマ加害(発生)初期、4回目放虫日を発生10日後としている。

[具体的データ]

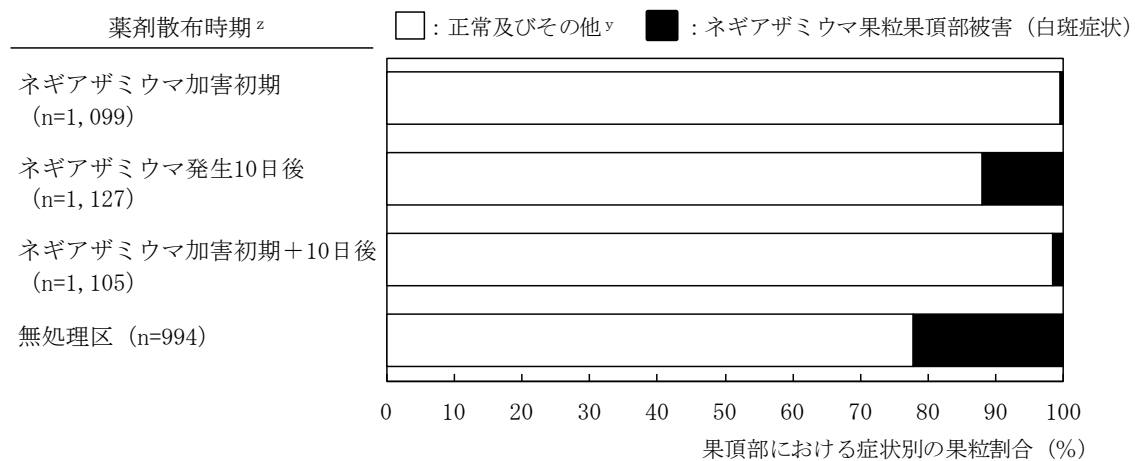


図1 薬剤散布時期別のネギアザミウマによる果粒果頂部

^z 「マスカット」雨除栽培におけるネギアザミウマ発生状況を再現するため、ネギアザミウマを硬核期以降である7月下旬から3～5日間隔で5回放虫を行い、最初の放虫日をネギアザミウマ加害（発生）初期、4回目放虫日をネギアザミウマ発生10日後とした。n=調査果粒数

^y 白斑症状が無い軽微な褐点病など

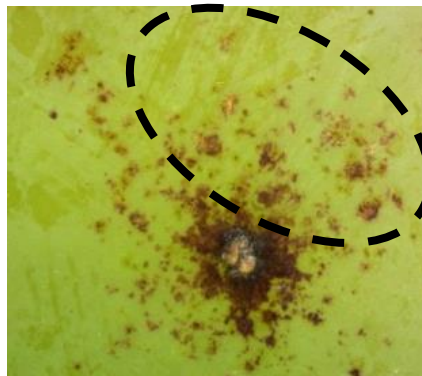


図2 ネギアザミウマ加害による白斑症状及び褐点病
(点線で囲んだ部分がネギアザミウマによる加害痕及び加害痕に感染し拡大した褐点病)

[その他]

研究課題名：ブドウのネギアザミウマに効率的な防除対策

予算区分：受託

研究期間：2015年度

研究担当者：薬師寺賢

関連情報等：1) [平成25年度試験研究主要成果、47-48](#)

2) [平成26年度試験研究主要成果、23-24](#)